

ひだご坊真宗教化センターだより 2021年12月号

御誕生 立教開宗 588 高宗大菩薩(北本願寺)

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2021(令和3)年11月29日 第17号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞
高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776 web http://hidagobo.jp takayama@higashihonganji.or.jp

荘白川組は今 教区・組の改編を経て思うこと

■嘉念坊善俊上人ゆかりの飛騨真宗発祥の地

荘白川組は、飛騨地方の西部に位置し、樹齢500年の荘川桜がある高山市荘川町(人口1000人余り・410世帯)と、世界文化遺産の大野郡白川村(人口1500人余り・601世帯)の地域にあたります。もともと旧荘川村と白川村は、昔から白川郷上切・中切・下切といった、清見から流れる庄川水系沿いの白川街道で繋がっていた隣村です。親鸞聖人の弟子、嘉念坊善俊上人が聖人の命で諸国布教の行脚をされ、美濃国郡上郡白鳥から白川郷に入り鳩谷に一字の道場を建てられ、親鸞聖人の教えが白川郷一帯に及び、後には飛騨の国に広まっていった飛騨真宗発祥の地です。



嘉念坊道場(白川村鳩谷)

善俊上人は、弘安5年(1282年)69歳で亡くなりましたが、その頃、飯島に道場を移して正蓮寺と号し、第9代明教まで約220年の長きにわたり繁栄しました。

内ヶ島為氏という武将が、白川郷はもとより小鳥郷(清見)から越中砺波までを領地としていましたが、正蓮寺の所領は内ヶ島をしのぐ程であったために、内ヶ島は正蓮寺を攻め、追われた第9代明教は、飯島卒塔婆峠にて自害に至りました。明教の子明心は、内ヶ島との合戦から危うく難を逃れ、本願寺第8代蓮如上人のとりなしにより内ヶ島と和議を結び、本願寺第9代実如上人は、再興を待た

れる正蓮寺の寺号を「照蓮寺」と改め、中野(荘川村中野、現在御母衣湖に没)に一字を創建し照蓮寺の復興に至りました。このような地理と歴史を共に有するのが荘川組と白川組でありました。

■荘白川組の誕生

全国には、大きな組もあれば小さな組もあり、いろいろな組があります。そこには様々な弊害も生じているのではないのでしょうか? 例外なく私達の組も小さいがゆえに弊害に直面していました。

1959年発行の寺院録を見ると、当時、荘川組は第8組で8ヶ寺、白川組は第9組で11ヶ寺が記載されています。どちらの村にも多くの住人がいましたが、御母衣ダム建設による立ち退きや集団離村などで徐々に人口は減少していきました。これにより、やむなく移転等をしなくてはならない寺院も出てくることとなり、結果的に両組とも寺院数は減少してきています。

現在でも、荘白川で生まれ育った子どもたちの多くが地元でなく他の場所で就職し、そこで世帯を持ち、故郷にUターンする人は数名しかなく、高齢者の両親2人だけの世帯が多くなってきています。やがて、一人暮らしとなったり、施設に入居したりして、その後は、世帯自体が無くなっていきます。そのため門徒数もじわじわと減少してきているのが現状です。私のところの門徒戸数も30年で6戸減り、想像出来るだけで20年後には5戸以上減少しそうです。都市部と違って田舎の地域においては、人口問題が寺院存続の危機に拍車をかけていると感じています。

この様な状況で、旧荘川組5ヶ寺と白川組6ヶ寺では、組の役員構成(組長・副組長・査察委員・

選出議員・会計他)でさえ成り立たない程の状態になってきていました。そのような中、前教務所長から「合併の方向を検討してみたらどうか?」と打診が有り、いくつもの問題が提起されましたが両組で何時間も協議を重ねて、2020年の岐阜高山教区改編の前に、全国に先駆けて2018年(平成30年)7月1日に、旧荘川組5ヶ寺と旧白川組6ヶ寺が合併し、荘白川組が誕生しました。

■宗門の行政改革に願うこと

現在、私として感じることは、合併から3年が経ち、メリットは上記の役員構成が出来る様になったくらいで、デメリットは、組のエリアが広範囲となってしまい(清見IC近くから富山県境までの片道約70キロ以上)、組の行事活動に支障を生じることとなったことが一番です。

組会・組門徒会・研修会などの諸行事を開催するにも、経費や移動に時間がかかる。きめ細やかに今まで出来ていたものが、どうしても中央付近での開催になるため、参加者の減少傾向化が起きています。また、今まで両組に来ていた助成金が1組分となり、やることは同じでも組の経費負担は大きくなっていくように思われます。

本山が進める行政改革や教区改編は、中央からの指導のため、地方の実情が判らないものがあるように感じます。私たちの組合併と同じように、負の面が同じように現れないことを願います。

荘白川組組長 法蓮寺住職

前田 法俊



★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

飛騨御坊報恩講勤修御礼 帰敬式執行95人が受式

11月1日～3日、飛騨御坊高山別院報恩講が勤修されました。3日午前には帰敬式も執行され、95人の方が受式されました。

今年度もコロナ感染拡大防止に配慮し、お齋やダイコン汁などの接待が中止されての勤修となりました。また、報恩講次第について、従来、期間中に再建永代経や報徳会及び追弔会が営まれていましたが、今年度より本来の報恩講次第により勤修されました。

各位から御懇志を賜りましたこと、準備から当日の進行において関係各位のご協力をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。



多くの方々にお手伝いいただきました。ありがとうございました。 報恩講準備風景

第40回 真宗公開講座 12月16日午後2時～

講題:無明の闇を照らすともしび

講師:朝戸臣統師

会費:500円

主催:真宗同朋会

出張!ごぼう子ども会 清見組で開催 帰敬式も執行

—清見のお寺で子ども会をはじめます—

センター教化三本柱の一つ、青少年教化の新たな取り組みが始まります。「出張!ごぼう子ども会」として、組が主体となる子ども会立ち上げ事業第一弾が清見組で開催されます。



聖徳太子1400回忌特集③ 真宗の土壌で伝承された聖徳太子信仰

■ 聖徳太子信仰について

聖徳太子歿後、はやくから太子信仰は広がり、公卿の藤原頼長は、平安後期の康治2年(1143)から久安6年(1150)にかけて、7年間で7回四天王寺に参詣していることが、頼長の日記『台記』により知ることができます。頼長だけではなく一族は度々参詣し、太子像が安置される絵堂で太子絵伝の絵解きを見聞きし、僧侶に質問などしています。

親鸞聖人在世の鎌倉時代になると太子信仰は盛んになり、その中心地は京都でした。

親鸞聖人歿後と考えられますが、知恩院境内に太子堂があり、その近くには東山の太子堂の存在が知れます。東山の太子堂は親鸞聖人在世の鎌倉後期には存在したと考えられ、古地図には青蓮院領地の西側、祇園社の北側に白毫寺(真言律宗)というお寺の境内に本願寺があり、親鸞聖人廟堂と記述されており、同じ境内に太子堂があります。

■ 各地に伝わる太子信仰

太子信仰は時代を経るなかで各地に広範囲に広がり、親鸞聖人歿後の関東に点在する二十四輩(親鸞聖人の高弟子24人開基の寺院)寺院だけでも太子堂が境内にある寺院は多く、聖人帰洛の途次となる三河には、妙源寺をはじめ本證寺・勝鬘寺・上宮寺にかつて太子堂が存在し、聖徳太子の木像をはじめ太子絵伝などの史料が伝わっています。

能登・金沢周辺をはじめ北陸地方には、真宗寺院や在家門徒宅にも聖徳太子像が伝わり、各地区に太子講が存在し、南無仏太子像など多数伝存して

います。

祇園祭に「太子山」があることは、あまり知られていません。祇園祭の起源は、平安中期の貞観5年(863)または同11年(869)ともいわれ、疫病が蔓延し死者が都にあふれるような時代に、予防や疫病退散を願う神事をしたことが由来といわれています。

富山県の井波・瑞泉寺には巨大な太子堂があり、高岡の城端・善徳寺と両極を成し、北陸を代表する太子信仰の盛んな土地で、太子絵伝の絵解きは両寺とも特に有名です。

■ 飛騨各地の太子信仰

飛騨における太子信仰は伝承とともに古くから伝わっています。願生寺が旧白川村(荘川海塩村)から現在地に移転先を選ぶときに、聖徳太子堂の旧蹟地である岡本村が選定されたことを伝えています。

神岡吉田の常蓮寺の太子像は厨子に入れられており、毎年7月24日にご開帳法要が勤められるときに開かれ、夜には岐阜県重要無形民族文化財指定の太子踊りがあります。太子信仰が民衆の踊りとして土着化して生きている、有形無形の太子信仰であることを示しています。

冬頭王塚山 聖徳太子石像の由来「冬頭王塚山聖徳皇太子縁記」によると、大正初期に東等寺のある門徒が大病を患い、医者からも死を告げられる状態であったが、何とか治り回復できたこに仏恩を感じ、太子は49歳で亡くなっている、いま自分は49歳であるのでこれを仏縁として聖徳太子

の尊像を建てたいと、東等寺住職慧了に相談したところ、太子奉讃会が結成され、浄財を広く募り、石工彫刻師・高原忠次郎氏に依頼して石像の聖徳太子像を安置したことがまとめられています。

古川誓願寺の太子堂の由来。誓願寺に太子堂があることはあまり知られていません。南吉城建築組合が古川太子講を中心に太子堂建設運動がはじまり、奉讃会が結成されました。昭和48年5月に太子堂が完成しています。3年前に大工職人が少なくなり奉讃会は解散、誓願寺で護られています。

■ 親鸞聖人の出遇われた聖徳太子をいただきなす

20年前、聖徳太子の名称が歴史研究のうえで問題となりました。「厩戸」(うやまど)が本来の名前であり、聖徳太子という人物はいなかったという説が出され、一時教科書には「厩戸王(聖徳太子)」と表記されましたが、この表記の変更も問題となり、以前の聖徳太子に戻されています。このように、日本における聖徳太子の歴史像・位置付けがゆらいでいることが、この騒ぎによりはつきりしました。

このたび聖徳太子歿後1400年を迎え、あらためて聖徳太子をいただきなす機会を得ました。本願念仏の教えをいただく私たちは、親鸞聖人が出遇い受けとめられた聖徳太子を新ためて問い直し、いただき直すことが今後の課題であると思われれます。(了)

高山二組 東等寺住職 竹田雅文

『高山市民時報』ミニ法話『響』連載中

12月の寄稿者

- 三島 清圓氏 (吉城組 西念寺住職)
- 三島 多聞 (高山別院輪番)
- 四衢 亮氏 (高山1組 不遠寺住職)
- 白尾 匡氏 (朝高組 長圓寺住職)

web ひだご坊でも「一口法話」配信中!

<https://hidagobo.jp/>

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

帰敬式受式奨励ポスターを発行 青少幼年部会

青少幼年部会では、「出張!ごぼう子ども会」(12月12日清見組開催)を機縁として、子ども・その親子で帰敬式を受けていただける場を設けることにしました。

子どもたちにも、法名をいただいて教えとともに人生を歩んでいただきたい。この帰敬式推進はセンター教化三本柱の一つであり、また再来年にお迎えする宗祖御誕生850年慶讃法要の重点施策でもあります。今後この推進運動を、部会の主眼として取り組んでまいります。

このたび、子どもから大人まで、対象を限定しないメッセージポスターを制作しました。本堂内に掲示いただき、有縁の方々へ受式奨励くださいますようお願い致します。



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2021年12月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
1	水	19:00	組 清見組親鸞教室⑤	
2	木	13:30	教 真宗同朋会支部長会議	研修室
3	金	13:00	別 三日のご坊 法話:白尾 匡氏(長圓寺住職)	本堂
4	土			
5	日	11:00	別 納骨経	本堂・御坊会館
6	月	15:00	教 高山地区財務小委員会	研修室
7	火	14:00 19:00	セ 伝道部会 組 朝日高根組親鸞教室③	研修室 正覺寺
8	水			
9	木			
10	金	19:00	教 岐阜別院報恩講団参 組 高山二組親鸞教室②	岐阜別院 御坊会館
11	土	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:輪番	御坊会館
12	日	10:00	セ 清見組子ども会	了徳寺
13	月	7:00 13:30	別 前住上人ご命日 教 真宗同朋会・同推協懇談会②	本堂 岐阜高山教務所
14	火			
15	水	7:00	別 半日華	
16	木	14:00	セ 真宗公開講座(講師:朝戸臣統氏)	本堂
17	金	13:30	教 慶讃法要広報部会	高山教務支所

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会場
18	土			
19	日			
20	月	19:00	セ 組門会研修講師学習会	
21	火	13:00	別 おすすめ払い	本堂
22	水	13:00	別 松すべき	教務支所事務休止(終日)
23	木	19:00	教 教化研究所定例	
24	金	19:00	組 高山二組親鸞教室③	御坊会館
25	土			
26	日			
27	月	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂
28	火	7:00 13:00	別 一日華 別 親鸞聖人御命日 法話:宮川 暁声氏(暎芳寺住職)	本堂
29	水		教務所冬期休暇~5日	
30	木			
31	金	23:00	別 万灯会	

2022年1月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
12	水	19:00	教 高山二組親鸞教室④	14	金		宗務改革に関する内局巡回
13	木	14:00	教 解放推進協議会常任委	14	金	19:00	教 朝日高根組親鸞教室④